

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発育サポートハートリハ龍郷		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	リハビリ専門職を配置していることで、子供と保護者、機関のニーズや課題に対して、特性に応じた専門性のある支援の実施を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職が介入し、課題の分析を行っている ・個々の特性に応じた具体的な支援を設定し、情報共有や助言を行っている ・日々の状況に合わせてアプローチを実施 	専門職（理学療法士・作業療法士）と保育士、児童指導員が連携し、課題や成長の評価を行い、スタッフ間のみならず保護者や関係機関と共有して成長する環境作りを行う
2	保護者から機関での課題や目標の相談があった際には、随時、訪問介入できる支援体制を整えている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口を設置している上に、SNSを用いて保護者からの相談が行いやすい環境を作っている ・送迎時には機関での様子や情報を共有できるように担当者とのコミュニケーションを大切にしている 	困り感を伝えられない保護者に対しても対応できるように、定期的に事業所から確認できるように心掛ける
3	機関での様子や困り感をSNSで写真や動画を添えて伝えている	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを用い健康状態の連絡、機関での困り感や家庭での様子（画像・動画）なども対応している ・機関での様子が保護者に伝わりやすいように写真や動画を添えての情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談を調整し、保護者との意見交換をさらに深めていく ・保護者にプログラム内容及び実施状況をSNSを用いて伝え、子供の支援と成長を共通理解しながら支援を行う

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	機関と保護者を含めての情報共有の場を提供できていない	保護者、機関の担当者といった個々のフィードバックは実施できているが、三者間での会議が実施できていない	三者間、四者間（相談員を含めて）での面談が出来るように相談員に提言するなど自己発信し出来るように心掛ける
2	フィードバックの時間が不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・機関側から提示された時間内でフィードバックを行っている為、話し込んでしまうと時間を気にしてしまう ・課題解決の糸口として、理解しやすいように全体像から説明するなど、要所を絞って切れていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックの時間が不十分であった際には、再度フィードバックの時間を調整し何うようにする ・端的に分かりやすく説明できるように要所を絞ったうえで、フィードバックの時間に臨む
3	非常時等の対応について説明不足	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時マニュアル等の説明不足 ・個別対応のため、まとまった全体訓練が行うことができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル等の掲示の周知を行う ・初回介入のカンファレンス時に機関と非常時対応について話し合い、対応方法を保護者へ周知する